

令和6年度 高知市立学校 学校評価書

学校名 高知商業高等学校

大項目	自己評価				学校関係者評価	
	中項目	小項目 (評価指標・具体的な取り組み)	達成状況・改善方策	評価	評価	
1・生徒支援改革	(1)皆勤・精勤を増やす支援	①遅刻減少を目指す指導の展開 ②啓発・顕彰活動の展開 ③精皆勤3年間60%以上	グーグルチャットを利用する(特進)90%以上達成することができた(1年)顕彰活動を就業式の時にクラスで精皆勤者を公表する(2年)遅刻0日を設定、実施したが、遅刻者が多く減少していない。個別に話をしていく(生徒)就職指導に必要な忌引き扱いで生徒の出席状況に影響がないようにできた(進路)3学期以降もできていることをたたえる指導を継続する(特活)朝の見回り、表情等の様子を見ることができた(相談)学年間問わず、少しずつ出席に対してルーズな面が見える(商業)	B	B	遅刻0日の設定日でも遅刻が例年より多いが、精皆勤の指標は上回っている。
	(2)相手を思いやる心を育む支援	①相手を思いやる言葉を使う(自他尊重) ②相手を思いやる行動をとる(判断・行動) ③相手への思いを込めて挨拶する(感謝・感動)	仲間づくりのためクラスで校外学習を次年度も計画する(特進)ほとんどの生徒が服装を守ることができているが、2年生からの化粧が多くなってきたり、暑い日の男子の服装が乱れたりすることがあった(ライ)教職員が手本となる言葉使いで指導する。ボランティア活動を推進する(社マ)科で統一した掲示物での指導はできているが、徐々にメリハリは無くなってきている(スポ)挨拶が素晴らしい。不注意な言動が見られた(1年)集会等で、相手を思いやる行動の大切さを伝えた。毎朝の生徒玄関でのあいさつ運動の実施(生徒)面接指導でお世話になった先生方に報告とお礼をするよう呼びかけを行った(進路)市商祭、グローバルフェスティバルの開催やラオス交流30周年記念式典を通してお客様や来賓の方々に対する思いやりのある接客、おもてなしを行った(特活)飲食可のゾーンを作ったことで、マナーの徹底ができた(図書)夏季休業中に学習会を実施し、Google Workspaceを活用した協働的な学びを提案した(情報)挨拶しろという前に先生自ら挨拶する必要がある(地公)プリント配布時にお礼や、発表者への拍手があったりと、相手を思いやる気持ちがよくでている(理科)行事や体験を通して周りの人に対する感謝の気持ちが向上した(家庭)丁寧な言葉を用いることに心がけ、落ち着いた学習環境で指導している(商業)自分の意見や考えを述べたり書く活動を毎時取り入れた(英語)	B	B	多くの生徒が気持ちの良い挨拶ができている。 身だしなみや化粧について指導・支援が必要である。
	(3)公共施設を利用する意識を育む支援	①清掃(使う前よりキレイにして返す) ②教室等の戸締り・施錠(誰がを明確にする) ③清掃後の振り返り支援(思考・判断・表現力)	クラス委員と連携し、習慣化する(社マ)掃除について、取り組みが改善された。全体的に落ち着いてきた(スポ)一時期戸締りをはじめ、扇風機、冷房のスイッチの切り忘れなどがあったが、先生方の見回り等により改善された。戸締り・施錠については、自分事として考えられるよう指導していく(2年)巡回を実施し	C	C	学校という公共施設を利用しているという意識を育む必要がある。

			教室の施錠について注意をする。使用後の片付けなど問題がある（生徒）一度だけ、生徒から「進路室に誰もいません」という報告があった。進路部の先生方にはメッセージで周知し再発防止に努めた（進路）市商祭では、学校環境委員会の取組として各クラスの販売場所にゴミ箱を設置し、清掃状況の改善を図ることができた（特活）行事等の忙しい時期は生徒の掃除への意欲が下がることがあったが、ルールを徹底することで指導できた（図書）日々リーダーを決め、掃除の取組内容についての振り返りと、次回の目標を生徒同士で決めていった（相談）教科書があるにも関わらず、安易に友人の教科書の写真を撮って教科書代わりに使用している生徒がいる（数学）理科室使用後の片付け、教室での実験や観察、フィールドワーク後など、整理し、落ち着いた状態で授業のまとめまであらかたできている（理科）授業の開始準備が遅れ気味である。教員も早めに教室に到着し、指導に心がける（商業）使用場所や用具の点検は怪我の防止にもつながるので徹底する（体育）			施設としてのトイレ環境の改善が必要である。
	(4)交通ルールの厳守と命を守る支援	①日常指導の徹底 ②自転車安全運転指導の徹底と継続 ③ヘルメット着用の推進	道交法改正に伴い、注意喚起の機会を増やした（スポ）交通事故が減らない（1年）TNTを活用し、クラスで取り組む（2年）事故についてルールマナーを注意する。3学期も講習会を実施（生徒）職場見学の事前指導や就職激励会で交通ルールの確認と安全指導は未実施。運転免許取得指導は必要（進路）秋の県内一斉交通安全指導に本校 PTA 役員保護者5名、他高校 P 連高知地区高知商業地区保護者2名が参加した（総務）保健委員会の取組として「防災」をテーマに活動することができたが、企画立案やプロジェクトの実施においては課題となった（特活）	B	B	交通事故防止につながる支援や手立て等対策を講じてほしい。
2・学び方改革	(1)個別最適化学習で誰一人取り残すことのない学びを実践する	①主体的に学ぶ力を育成する ②生徒の理解状況や能力にあった学びを支援する ③学んだことを活用し、質の高い理解を育成する	面談、補習は積極的に実施した。（情マ）キッズリーダー資格取得から実際の指導実践を継続して実施できた（スポ）放課後を活用して学習できるように支援する。教科との連携を図る（2年）国公立講座にて課題提出、出前講座の資料共有、報連相などができた。タブレット活用を進路に関する探究学習に活用することを計画する（進路）市商祭、グローバルフェスティバルや30周年記念式典を通して、生徒にどのような力を身につけさせたいのか生徒の目指す姿を考え指導できた（特活）新たに BYOD を希望する生徒が端末を利用できる環境整備を行った（情報）相談室登校の生徒と教科担当者を繋ぎ、各教科の課題や提出物の確認にタブレットを有効活用させた（相談）2学期は作品の創作等に注力した（国語）特進コースでは引き続き模試の対策を行っている（数学）論理的な思考力を要する計算問題や各知識との繋がりが深い内容が増え、公式ややり方の	B	B	課題を発見し、その解決策を見出す探究的な学びに取り組んでいる。

			説明ではなく、それがなぜ成り立つのか、を意識させることができた（理科）実習記録へのコメントにより、それぞれの進度に合わせた指導ができた。家庭での自由な実践も増えてきた（家庭）ICTやアプリを積極的に活用し、一人ひとりに対応した指導を継続する（商業）パフォーマンステスト、検定取得に向けた学習をICTを活用してそれぞれが自主的に取り組めるよう各教材の活用指導などを行った（英語）			
(2)学習行動及び家庭学習を促す支援	<ul style="list-style-type: none"> ①授業実践スタンダード(M型・W型・MW型)を基礎とした市商マネジメント力の育成 ②自学を促す支援(授業課題・長期休業中・検定等) ③全員が全商検定1級を取得する支援 ④読解力を高める朝読(課題)の充実 	各教科担当と連携を図り、検定学習を含めた課題提示を実施した(情マ)朝読におけるタブレットの注意を継続実施できた。「文字を読む行動」を継続する(スポ)自主学習を各教室で行っている(1年)検定取得の大切さの説明を主任・副主任で行った(2年)朝日新聞の活用方法については、国公立講座とリンクした計画を立てるようにする(進路)KAHOOTについては継続できている。一方で企画の実施に偏りがある点や学習だよりの配信が滞っているなど改善を図る必要がある(特活)検定対策、定期考査対策で一定の利用がある(図書)新たにBYODを希望する生徒が端末を利用できる環境整備を行った(情報)相談室で取り組める課題等を生徒自らが決めて活動できるように、相談室での過ごし方のサポートができた(相談)各教科担当で単元にあった授業構成を練ることができた(国語)特進コースは朝のテストを実施しているが取組に対して意識の低い生徒がでてきた。2学期の数学検定は希望者0であった(数学)課題においては、グラフの読み取りや、実演が必要な活動も入れており、少なくとも、教科書を見て写す内容は出していない(理科)実習を通して、計画、準備、実践、評価、振り返りを繰り返し、ブラッシュアップしていくようにした。評価方法は見直しをしていく。2年生ホームプロジェクトを実施し、活動報告を行い、生徒同士で相互にアドバイスを送りあった(家庭)検定補習は各学年で各教員が対応しながら、生徒の力を伸ばすことができた。課題研究発表準備や検定試験など計画的に学習に取り組んでいく(商業)持久走では毎時間振り返りプリントに記入させ、評価していく(体育)全商英語検定、実用英語検定取得に向けた補習や授業での対策、長期休暇中の集中講座を行った(英語)	B	B	校外学習が昨年の74件から104件と大幅に増えたことから、学習行動を促す支援ができていていると見受けられる。	
3・カリキュラム改革	(1)高知や社会に貢献する力を育成するカリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ①学校における学びと実社会の課題と結び付けて理解できる力の育成 ②グローバルな視点で、社会や地域の活性化を考え企画できる共創力の育成 ③企業・大学・行政・社会や地域の方々と連携・協働し行動できる力の育成 	公募作品の制作(3年)⇒・クールビズ四国:佳作1名・高知県庁安心安全:佳作1名・土佐市役所P・M(蚤の市イベント)出店協力)・小中学校ICT出張講座実施(小:4校・中:2校)(情マ)保育園児へのスポーツ指導の計画と実施ができた。第3回目に向けて継続(スポマ)HOTS講座も総合型選抜対策として実施、推薦I対策にもつながった(参加	B	A	科・コースごとに地域や社会の課題に向き合った特色ある取組がなされている。

		者の合格率約 90%)。国公立講座に探究学習の要素を入れるよう計画 (進路) 市商祭・グローバルフェスティバルでは、評議員や生徒会執行部とともにラオス商品販売等を行うことで地域貢献および国際協力活動に参加することができた。今後は商品の知識などを深める必要がある (特活) 入試時期は新聞記事の利用多かった (図書) BYOD を希望する生徒が端末を利用できる環境整備をおこなった。パソコン室 P C の Windows のアップデートを実施 (情報) 市商祭において、学校のリーダーとしての責務を概ね果たすことができた (3 年) 科目性によっては地域に関して・社会に関して、授業内容とリンクする探究問題を設定し、実社会で活かされる科学技術、実社会で活かすことができる科学的思考を少しずつ養うことができています (理科)			
(2)高いレベルの進路を目指す生徒を育成するカリキュラム	①国公立大学受験者・就職希望者への支援 ②総合型選抜・学校推薦型・共通テストへの支援 ③面接・文書作成支援体制の構築	夏休みの補習や特別講座を予定通り実施できた。推薦入試で国公立 10 名合格、引き続き進路指導を実施。(特進) ライセンスコースによる (日商簿記) 検定週間の実施 (2 年) 小論文においては担当者が各学年に事前学習の場を設け、小論文模試の成績アップ。国公立推薦の個別指導割り振りを行ったが人数が増えすぎたため困難をきわめ、ウェブでの周知。3 学期に対策を練る。就職希望者は 12 月も個別指導実施 (進路) クラスルーム、すぐる等で各種奨学金、入寮案内などの情報を配信 (総務) 生徒自らが役割分担を行い、各行事の目的や目標に合わせてマネジメント力を発揮するなど課題を解決する姿が見えた (特活) 前年比で図書室利用減。小論文対策本の紹介や、大学の受験方法を調べる手伝い ができた。年々受験方法も変わってしまうので、書籍のアップデートも随時行う。(図書) 志願理由書・小論文・面接指導・口頭諮問対策等、各教員が実施できている。中でも理科として、理系大学理系学部に対応する問題設定も行った。共通テスト対策として理科基礎科目の補習を特進コース主として実施しつつ、理系学部用基礎無し科目の対策も実施中 (理科)	B	B	国公立大学合格者が 54 名、大学入学共通テスト受験者が過去最高となり、一般試験にチャレンジする生徒が増えている点から高いレベルの進路を目指す生徒を育成していることが見受けられる。
(3)高いレベルの資格検定を目指す生徒を育成するカリキュラム	①全商 3 冠・日商簿記 2 級・基本情報・IT パスポート・日英検 2 級・漢検・時事能力検定・数検、会計サポートシステムの導入等で伸ばす指導 ②特進 (東大合格) ライ (日商簿記 1 級) 社マネ (日英検 1 級) 情マネ (S T E A M) スポマ (アスリート集団) 実現のための取り組み Hou1-A プロジェクト	外部講師も活用できた。錬歩会では地域の方との交流会を実施。(スポマ) R7 年度の予定表にも随時反映 (教務) 水野先生の進路検討会により、高いレベルの大学受験を推進。今年度の全商特別推薦受験者はゼロ。改善の余地あり (進路) 学校行事を通して生徒一人ひとりが市商マネジメント力を伸ばし、進路実現に向けて自己の言葉で語る姿が見られた (特活)	B	B	検定週間を設定するなど学校全体で取り組むことができています。
(4)文化活動・行事・講演会等の質的向上をめざす	①授業での学びを学校行事・文化活動・講演会等につなげるカリキュラムや取組 ②文化部・授業で各種大会の参加や	高知スポーツサミット参加。HP に活動報告・情報発信を継続 (スポマ) 市商祭や講演など成長が見られた (1 年) 技術競技会への参加。科コースにおいて	B	B	

		コンクールへの応募、技術競技会全種目制覇への支援	文化祭への商品開発と販売の取組。(2年) 進路に関するイベント・応募等の一覧表づくりはできなかった。来年度は一覧表作成につなげる(進路) PTA 便り 163 号の発行、全国大会出場と藤川球児阪神新監督就任懸垂幕掲示(総務) 当初に予定していた原価計算シート等の追加は実現していない。一方で昨年の仕入状況を明示し、各クラスが考える材料を提供した。(特活) ビブリオバトルへの4名参加(図書) がんの講演等、生徒が主体的に運営を行うことができた。(3年)				技術競技会全種目制覇やコミックアート部が7年連続で全国大会に出場、次年度も頑張っしてほしい。
4. 市商マネジメント力の育成	(1)コミュニケーション力を育成する支援	①協働的な学びを推進	文化祭・修学旅行・練歩会等の行事において実施(2年) 面接指導・グループワークの指導(進路) GW や PW を多く用いて委員会等を実施する指導を行うことができている(特活) 夏季休業中に学習会を実施、Google Workspace を活用した協働的な学びを提案(情報) 2 学期各クラスの状況に応じて LH 実施。2 学期一斉 LH の在り方を検討することが必要か(人権) 科目性にもよるが、対話的な活動は多く取り入れ、複数の視点から考えを創出していく場を設定できている。(理科)	B	B		課題研究発表会で生徒たちの学習成果を残すことができたと考える。
	(2)課題発見・課題解決力を育成する支援	①潜在的な問題や改善点を見つける力、発見した課題に対して解決・実行・成果を出す力の育成	国公立講座で取材活動を推進、志望理由書作成につなげた。面接振り返りシート活用はさせられず(進路) カフェ企画を実施し、貸出冊数が増加した。図書委員会が主体的に行動できた(特活) 課題の発見と、解決との流れやつながりが理解できていないことが顕著で、基礎から学び直しをした。(教育相談) 各教科にどのような実施状況を聞きとることが必要だった。(人権)	B	B		課題研究発表会をゴールに生徒たちの学習成果を支援できている。
	(3)プレゼンテーション力を育成する支援	①自らの言葉で発表・説明する力や論理的に表現する文書・資料作成力の育成	面接指導等においてプレゼン力を高めることができた(進路) 1 学期同様、タブレットを使用しない発表と使用した発表の2 極化が進んでいる。状況に合わせた指導を行う。(特活)	B	B		様々な発表会で成果を残すことができています。
	(4)講義理解力を育成する支援	①講義でのメモ力 ②講義をもとにした論述力・討論力の育成	講演会は和休ボードへ明記(教務) 国公立講座で講義理解力試験として実施ができず。事前指導が大事(進路) 基礎的知識習得を行う機会が必要(特活)	B	B		工夫して支援がなされている。
	(5)ICT・英語活用力を育成する支援	①Society5.0・生成 AI に対応するタブレット活用力の育成 ②英語でコミュニケーションできる力の育成	二年生は修学旅行実施、無事に英語活動などの目標を達成(特進) チャット GPT の活用はできなかった。来年度は積極的に活用していきたい(進路) 生徒会役員選挙ではタブレットを用いた電子投票を継続。1 学期の振り返りをもとに出欠確認の改善を図る。(特活) 朝読委員会は図書室 PC で朝読本リストを作成。図書委員会は3 学期に図書館報作成に向け、各自が文書を打ち込んだ。(図書) タブレットを有効的に活用することは出来ていたが、目的外使用も散見された。(3年) アウトプットできる力を伸ばす言語活動を重点的に行った。特に話す力を身に付けるため、長期休暇中の補習において社会マネジメント科では市教委から9名の ALT の先生方の力を	B	B		様々な活動を通じて ICT 活用力の高さが見られた。

			借り行うことができた。GTEC、全商英語検定の受験対策などによって4技能の向上を図ることができた。また、大学入試対策においても、英語活用力が求められる受験者への個別対応、指導を行った。高知県グローバル人材育成事業における小中高連携合同授業研究発表会の実施。(英語)			
	(6)察する力を育成する指導	①自主性・創造性の育成	生徒情報の共有をすすめた(生徒) 「想像力」を意識した指導ができず。来年度はどういう機会に指導ができるか教材研究を行う(進路) 想いをもち、行動を起こすには言葉させることが必要であると感じている(特活) 図書館報作成のため各自が読書感想文を読み PC 入力。良い刺激になっている(図書)	B	B	課題研究発表会で成果が見受けられる。
	(7)失敗から学ぶ力を育成する支援	①挑戦する力の育成 ②振り返る力の育成	あいさつ運動時など近況について話すなど、気に掛ける(生徒部) 早期取り組みを促したが生徒の行動につながらず。事前指導方法の再検討(進路) 振り返り会を継続、成果と課題を明確にして改善を図る力を身につけさせる。 (特活) 市商祭において各クラスとも独創的な取り組みができた。(3年) 持久走は例年通り全体的に頑張って走れている。男子 10 数年ぶりに新記録。その記録に挑もうとする生徒もおり盛り上がった。成果の裏に、全力で走らない生徒もおり、補走タイムの見直しの検討も考える時期にあるのでは、という意見もあり来年に向けての課題である。体育祭での競技時間がかかりすぎたため、競技の見直しや練習方法を検討することも課題(保健体育)	B	B	学校生活において経験をもとに成長していることが見受けられる。
5・6 重点学校組織運営計画	(1)情報管理(組織文化) (2)人材開発(組織改革) (3)改善力のある組織体制 (4)部署独自 PDCA の作成と運用		体験入学では体験授業や進路指導もある中で、準備や運営に協力して実施できた。自習監督や臨時時間割においては、特定の先生に偏りが出てしまうこともあったが、何とか平準化できるように苦慮しながら作成できた(教務) 全体で行動できるように声掛けをしていく学年会にも参加し、主任副主任の意見を拾い上げていく(生徒部) 進路情報について生徒・保護者への配信は一定できたが十分ではない。小論文や各進路行事の周知は事前に情報共有が十分できている。役割分担は1学期よりも声をかけ合いながらできた。業務が特定の先生に偏らないように来年度は計画していきたい(進路) 奨学金・部活動振興会会計、PTA 便りの発行等の業務の確実な運営ができた。PTA による文化祭地区物産展は 20 地区が参加盛り上がりを見せた。体育祭での弁当等販売、グローバルフェスティバルでは多くのPTA 役員の協力をいただいた。全国大会等出場以外にも藤川球児阪神新監督就任を掲げ懸垂幕の有効活用ができた(総務) カリマネ委員会の振り返りや他部署・他教員の振り返りやご意見を踏まえて、改善	B	B	自己評価を尊重する。

を図ることに重点をおいている。また若年教員の新鮮な考えを学校行事等の特別活動に活かす必要性を感じている（特活）図書館だより発行、カウンター当番指導も順調に行えた。また朝読委員会の朝読本の登録、読書感想文のとりまとめ、図書委員会の図書館報の入力作業、ビブリオバトルへの参加指導など、盛りだくさんの2学期だったが、計画通りに実施できた。また、ビブリオバトルの結果は入賞に届かなかったが、年々生徒の参加意欲は高まっている。参加後の感想でも良い意見が聞けた（図書）

班員間でコミュニケーションを取り、包括的に業務を遂行する（情報班）月1回の定例会の実施は計画通りに実施できている。日々忙しい中での集まりとなり、行事の多い2学期は毎回全員が揃うことが課題でもある（教育相談）教員間の報連相がうまくいっている（1年）共通フォルダで学年団の情報を共有。月1回のクラス状況を記入して学年団での生徒情報の共有を図っている（2年）1学期同様、情報共有や情報発信について概ね良好であった（3年）単位ごと、学期ごとの共有ができなかったところがある。公開授業等は各先生方で評価について探究し実践できた（国）2学期は行事ごとが多く定期ミーティングを実施することができなかったが、ミーティングを行い情報共有をする時間も少なくなってしまったので、スケジュールを立て実施する（地歴）外部研修会へは2学期は参加していない。過去のテストを参考にしながら、思考問題や論理問題を導入している（数）全商WEBシステムによる検定試験の申込みや合格発表、SAHへの取組などが定着しつつある。更なる仕組みの構築が必要である。情報教育の不安は今後も続くため、新たな分野で活躍できる力の育成や勉強が必要である。今後も教科間での情報共有を継続し情報管理や指導力・専門分野の向上に努める（商業）何でも言い合える教官室でありたい（体）グローバル人材育成事業への参加。研究授業の実施。土佐山学舎後期課程の授業参観。オンライン授業の実施（外国語）教科会での報告事項・共有事項を充実化し、直接的に理科に関わらないことでも共有をかけている。同じ理科管理室内にいることもあり、教育活動に対する意見交換を頻繁に行うことができている（理科）授業活用資料は1学期同様に共有保存場所で管理業務の整理、削減で、教材研究等のできる時間的ゆとりを確保する（家庭）目標は一定達成しましたが、働き過ぎました。勤務時間の

			改善に取り組みます(特進)情報シートをまとめ、過去と比較することや、他教科他クラスと比較することができるようにできた(ライ)科内の報告・連絡・相談を実施(社マネ)科会の時間縮小実施(情マネ)計画表の明示はできている。振り返りの役割分担や雑談ができていない(スポ)				
・安全・防災教育	(1)交通安全指導の充実	①自転車安全指導の徹底 ②旭校区の諸団体との連携	毎月朝の交通安全指導を実施した。自転車の安全で適正な利用について全校集会を行った。自転車のヘルメット購入や周知啓発などの取組を進めてきた。(生徒)PTA 秋の県内一斉交通安全運動に参加した(総務)旭地区の会(あさひのこどもを守る会/旭地区町内連合会/旭校区青少年育成協議会)等に参加し、安全・安心なまちづくりの啓発及び推進を図る。安全、安心なまちづくり広報啓発パレードに参加した(管理)	B	B	安心・安全な町作りの啓発のために、地域と連携して取り組んでいる。	
	(2)防災教育の充実	①系統的な年間計画の策定と実施 ②地域と連携した避難訓練の計画と実施	危機管理マニュアルの見直しに併せて策定する。シェイクアウト訓練を実施した。安全教育研修会に参加し、防災に対する危機管理能力の向上を図る。避難所としての運営を地域住民と連携した訓練に参加する。3学期に避難訓練を計画する(管理)	B	B	遠方から通う生徒への安全確保や啓発に取り組んで欲しい。	
8・総合評価	(1)高知と社会に貢献し進学にも就職にも強い元気のある選ばれる商業高校	①体験入学参加者および受験者の増加 ②進路決定100%実現 ③県内進学就職率の向上 ④学校が同じ方向を向くためのPDCAサイクルの実現	①体験入学参加者 788 名 ②進路決定 約 98.9% 270/273 人 3.17 現在 ③県内就職 34 人(公務員 11・民間 23) 県内進学 88 人 ④共通 PDCA 表の作成と運用の実施ができている。	B	A	全科で高校入試の倍率が1倍を超え、選ばれる学校を維持できている。	